



○埼玉県立高校入試・昨年度のまとめ

先日、「合格パスポート」という受験資料集を配布しました。今年1～3月の入試のまとめ、前年度の受験日程、私立高校の学費などの資料がのっているので、参考にしてください。今回、この場では県立高校の入試概況を紹介します。

【埼玉県立高校の入試概況】 ※みなさんは2023年度（令和5年度）入試になります。学力検査は2/24に行われました。埼玉県の公立校入試は1回のみ入試です。学力検査は5科で面接や実技検査を実施するところがあります。調査書は全学年の評定を使用、学年ごとに学校が定めた比率をかけて換算し、それに特別活動の記録なども点数化して調査書点に加えます。比率はほとんどの学校で第3学年を高く設定しており、3年生で頑張れば調査書が上がりやすくなっています。学力検査問題の数学と英語では学校の判断により一部に応用問題を出題しています（学校選択問題）。2022年度入試では市立大宮北が加わり、以下の22校で実施しました。

【学校選択問題実施校】 浦和、浦和第一女子、浦和西、大宮、川口北、蕨、和光国際、川越、川越女子、川越南、所沢、所沢北、熊谷、熊谷女子、熊谷西、不動岡、春日部、越ヶ谷、越谷北、市立浦和、市立大宮北、川口市立

選考は学力検査の得点と調査書点を、第1次選考では6：4～4：6の範囲で、第2次選考では7：3～3：7の範囲でそれぞれ換算し、それらを合計した総合点で行われます。第1次選考では定員の60～80%を、第2次選考では残りの定員の60～100%を選考します。第3次選考を実施するところもあります。

第1次選考では全体の約7割が学力重視で選考しています。6：4はそのうちの約半数で、調査書重視は少数派です。第2次選考になると4分の1が7：3に設定し、学力検査の結果をより重視しています。特に学力上位校では、調査書や特別活動の記録では差がつかないケースが多く、ほぼ学力検査の結果で合否が決まってしまうという実態があります。

2022年度の志願者倍率は1.10倍で前年度（1.09倍）より0.01ポイントアップしましたが、それでも今の入試制度になって最も低い倍率だった前年度に次ぐ低い倍率です。下の表のように普通科は0.01ポイントアップしたものの、専門学科と総合学科は2年連続で1倍に届かず、普通科との格差が拡大しました。

※倍率の数値データの表は省略します。配布した冊子を参照してください。

普通科で定員割れになった学校は31校34学科・コースで前年度の30校32学科・コースとほぼ同じ多いままでした。しかし、1.4倍以上の高倍率校は前年度の7校から倍増して14校となり普通科の中でも格差が拡大しました。

全日制全体の合格者数は35,119人、不合格者は前年度より約300人増えて4,769人でした。

<高等学校>

武蔵野音楽大学附属高等学校（入間市）
学校案内・入試案内が届いています

<その他>

1. 新潟県立海洋高等学校（新潟県糸魚川市）
体験入学、出張学校説明会、オンライン学校説明会、学校説明会 の案内
2. 日野工業高等学園（東京都日野市）（日野自動車株式会社にある企業内訓練校）
体験入学・見学説明会の案内